

「長野の自然 100 選」 選定

5 年前に、「21 世紀に残したい日本の自然 100 選」の選定を行った朝日新聞社は、その後各県別の自然 100 選選定活動を続けているが、昭和 62 年度は長野県がその対象となった。

昭和 62 年 6 月、同社と長野県、テレビ信州、森林文化協会が共催する形で、長野の自然 100 選選定委員会が発足。委員会は花岡堅而氏（信州の緑を守り育てる会代表、元日本医師会長）を委員長とする 9 名の委員で構成され、信州大学関係としては、清水建美（教養部）、桜井善雄（繊維学部）、只木良也（理学部）、羽田健三（教育学部名誉教授）の 4 名がこれに加わった。前 3 名は当信州大学環境問題研究教育懇談会のメンバーであり、羽田先生もまた現役時代は当会の有力メンバーであった。

選定作業は、まず候補地の選定からはじめられた。4 月から県内全市町村に呼び掛けて推薦された 300 箇所、県の自然環境保全地域や郷土環境保全地域などの指定地、県自然保護課等のアドバイスを加えて、事務局が 200 箇所あまりに絞り込んだ候補予定地が委員会に提示され、委員会ではこれらをつ一つ各種資料を参照しながら検討した。

今回のプロジェクトにおける「選定基準」は、委員会において次のように設定された。

- ① 自然の地形、動植物の生態、良好な環境が保たれている山、溪谷、森林、草原、河川、湖沼など。
- ② 環境資源として重要なブナ林などの森林や草原、湖沼など。
- ③ 植物の自生地、動物の生息地として学術的に貴重な自然。
- ④ 渡り鳥の中継基地となっている森林、河川、湖沼。
- ⑤ 文化史跡と豊かな自然に恵まれた地区。
- ⑥ 身近な都市公園、鎮守の森、散策路、野鳥の森、自然歩道など。

⑦ 地元では親しまれていながら、広くは知られていない隠れた自然の掘り起こし。

⑧ 開発が進み荒廃した自然でも、住民の努力などで復元を期待できるところ。

委員会自体の追加候補地を若干加え、7 月 3 日付け朝日新聞紙上に候補地 260 箇所が公示された。9 月末締切で読者がこれを目安にし、あるいは候補地外であっても自由に投票し、その結果を参考にして委員会が 100 箇所を決めるというのが、その選定方法であった。

投票数は尻上がりに増加し、最終的には 3,084,279 票に及んだ。最終集計を待って、10 月に選定委員会が開かれ、

投票数を基準にしながら、学術的観点、地域バランスも考慮して、候補地一つ一つが検討された。地理的に近接し一体とみなせるものは統合し、得票数は少なくともぜひ残すべきものは繰り入れる、などの作業の結果、表のように選定され、11 月 3 日付け紙面に発表された。

選定を終えての 3 委員のコメントは次のとおりであった（11 月 3 日付け朝日新聞）。

桜井 多数の県民の関心と意見が集約されて、「長野の自然 100 選」が決まった。さすが自然の国信州、候補地にはこと欠かないといった感が深い。選定された地域ではどうかこの結果を、観光宣伝に利用することを急ぐあまり、元手であるよき自然をいじり壊すことがないよう、大切に守り伝えていってほしい。

清水 信州の自然の豊かさを改めて知ることができた。候補地がたいへん多く、苦心の末、並列に取り上げたところも多い。上高地や八ヶ岳など有名な景勝地より、鍋倉山や沼池など、より身近な自然が上位に入ったことは、自然保護が身近なものになった証拠だと思う。今一度、身の回りの自然を見直してみたい。

只木 投票の熱意が優先した 100 選。さて、それらをどう維持するかである。選中にも多い草原・湿原・雑木林など遷移途上の自然は、「そっとしておく」だけでは姿を変えてしまうから、それに応じた維持手段が必要だし、原生的な自然は、100 選人気で人が集中して壊さめように。観光地 100 選ではないのだから。

11 月 24 日には、選定記念式が行われ、地元の市町村には認定証が渡された。式典に当たって、清水は次のような記念講演を行った。（清水建美・桜井善雄・只木良也）

* * * *

私のところへは、毎シーズン何人かの海外からの来訪者がある。私はきまって彼らに日本の第一印象をきくことにしているが、中国人は緑の豊かさを挙げ、欧米人は自然の美しさを口にする。緑の豊かさといえば、事実、日本の森林面積は 64%（68% の説もある）、私の住む信州では 78% である。中国の北京周辺には森らしい森は全くなく、山には赤茶けた岩肌到低木が散在するのみ、山西省や甘粛省の黄土高原ではニセアカシアを使つての緑化が進められ、西の新疆ウイグル自治区では天山の水を誘導して市内の緑の維持に懸命である。北アメリカのロッキーでは、疎開するマツやトウヒの林はあるが乾燥の故におしなべて緑は貧弱である。

自然の美しさは緑の量だけに依存しているのではない。ヨーロッパや北アメリカ東半部には確かに緑は豊富であるが、息をのむような美しさはない。どこまで行っても、同じようなナラ類の二次林あるいは牧場の芝地が続く。欧米人が、日本の自然の美しさを挙げるのは無理はない。日本の自然は、小さい中にも多様多彩な色彩に富む。もみじ一つとってみても、ヨーロッパには紅色はまぎみられず、ふつうは褐葉と黄葉のみ、オウシュウナナカマドですら赤ではないことを確かめた経験が私にはある。

自然の豊かさを数字で表わすとすれば、植物の種数がよいだろう。ある算定によれば、日本（北海道～九州）に自生する種子植物の種数は3,834、固有率は37.8%である。日本の屋根信州には不確かながら2,508種という数字があるが、2,000種は固いだろう。比較のために、同じ島国のイギリス（面積は6割ほど）を調べてみると、1,457種、固有率は3.9%となった。長野県一県だけでイギリス全土をはるかに上回る。このような植物相の豊かさと固有率で表わされるその特異性は、われわれのかけがえのない財産なのである。

しかし、最近でこそ遺伝資源との関連上、植物の系統保存が巷間の話題となるようになったものの、野生植物となるとまだまだ意識は低く、せっかくの財産の保全が十分になされているとはいいがたい。その証拠について先日、環境庁で日本の野生植物の目録、いわば財産目録がようやく完成したばかりである。

本県は自然の宝庫といわれるだけに、県立自然史博物館といった研究教育機関がぜひとも必要であると思う。

系統保存といえ、種の保全はいうまでもないが、実際には種を抑えるだけでは不十分だろう。ヒトという種に多くの種族があるように、植物の種にもいろんな遺伝的な変異がある。たとえば、ハウチワカエデには葉が基部まで切れ込むもの（舞孔雀）もあるし、オオモミジには年中葉の赤い系統（野村）もある。雑草のスズメノテッポウには水田型とか畑地型といった、いわゆる生態型もある。これらは、外形から区別のできる種内の変異だが、他方、外形では識別しがたいちがいがもあることを忘

れてはならない。たとえば、シロバナタンポポのように広くかつ連続して分布する種に含まれるある種のタンパク質には地域的なちがいは認められないが、狭くて不連続に分布するカンアオイ類では、同種であっても集団が異なるとに含まれるタンパク質は異なることが分っている。つまり、分布が早く連続分布する植物は集団間の差は生じていないが、分布がおそく不連続分布をする種はすでに集団の間での遺伝子内容が異なるのである。

このように考えてくると、ある地域に、一見他地域と同じ植物があったとしても両者の遺伝的内容は十分に異なり、したがって、それらはそれぞれに個性あふれる自然をつくっており、いかにいえば、かけがえのない固有の財産をつくり上げているということになる。しばしば、植生の復元をめざし、出所を問わず同じ種類の植物だからと称して植え込むケースに出くわすが、時と場合によっては、それは復元ではなく単なる緑化であることを知らねばならない。

このことに関連して、今一つ指摘しておきたいことがある。このところ、よく環境創造の一環として、コマクサやミズバショウなど、自生地以外への植物の植え込みや播種がおこなわれるように聞くが、やはり問題があるだろう。

一つは、苗や種子の出所によっては、最寄りの自生地の集団との間に生ずる交雑によって、遺伝的内容が変質する恐れがあることである。梓川に放流されたカワマスと固有のイワナとの間に雑種が生じ、そのために、純粋のイワナがなくなりつつある現象が植物にはないとはいえないのである。

次に、外来植物はともかく、在来植物の自生地外への移植や播種は、確かな記録をつくり、その記録が継承されない限り、自生であると誤認される恐れがあるということである。これも、ある意味では残念ながら自然の攪乱に外ならない。自然の財産の取り扱いもまた慎重でありたいと思う。

（記念講演の内容は、「趣味の山野草」昭和63年2月号に掲載したので、若干補筆の上ここに再録した。）

「長野の自然 100 選」選定地

【北 信】 鍋倉山・黒倉山（飯山市） 沼池（飯山市） 小菅山・北竜湖（飯山市） 上の平高原（野沢温泉村） 野々海池（栄村・飯山市） 苗場山・鳥甲山（栄村） カヤノ平高原（木島平村） 志賀高原（山ノ内町） 鼻見城山（三水村） 黒姫山と苗名滝の自然林（信濃町） 野尻湖（信濃町） 飯綱山・霊仙寺山と飯綱高原（長野市・信濃町・牟礼村・戸隠村） 松川溪谷と山田牧場（高山村） 臥竜公園（須坂市） 五味池破風高原（須坂市） 米子大瀑布（須坂市） 戸隠連峰・戸隠高原（戸隠村・信濃町） 奥裾花溪谷（鬼無里村） あんずの里と観竜寺大峰（更埴市） 大雲寺の森（更埴市） 冠着山（戸倉町・上山田町・坂井村） 【東 信】 菅平高原（真田町・須坂市） 湯の丸高原と角間溪谷（東部町・真田町） 戸石城跡（上田市） 修那羅峠（青木村・坂井村） 保福寺峠（青木村・四賀村・丸子町） 蓼科山・大河原峠と春日溪谷（望月町・立科町・茅野市） 高峰高原（小諸市） 懐古園（小諸市） 浅間山（軽井沢町・御代田町・小諸市） 白糸の滝（軽井沢町） 荒船山と内山峡（佐久市） 白駒池（八千穂村・小海町） 御座山（北相木村・南相木村） 飯盛山（南牧村） 金峰山と千曲川源流（川上村） 【中 信】 雨飾山（小谷村） 白馬連山と風吹大池・樽池自然園（白馬村・小谷村） 姫川源流と親海湿原（白馬村） 唐花見湿原（八坂村） 北アルプス後立山連峰（大町市） 北アルプス表銀座（大町市・穂高町・安曇村） 仁科三湖と黒沢高原（大町市） 高瀬溪谷（大町市） 大峰高原白樺の森（池田町） 山清路・差切峡（坂北村・生坂村） 美ヶ原高原（松本市・武石村・和田村・丸子町） 有明山と中房溪谷（穂高町） 栗尾山満願寺の森（穂高町） 安曇野わさび田湧水群（穂高町・豊科町） 常念岳・蝶ヶ岳（堀金村・穂高町・安曇村）	鉢盛山と黒川溪谷（波田町・朝日村・奈川村・木祖村） 清水高原（山形村） 上高地と槍・穂高岳（安曇村・大町市） 乗鞍岳・乗鞍高原（安曇村） 野麦峠（奈川村） 鉢伏山と高ボッチ高原（松本市・塩尻市・岡谷市） 鳥居峠（木祖村・檜川村） 権兵衛峠（檜川村・南箕輪村・伊那市） 木曽駒森林公園（日義村） 城山風景林（木曽福島町） 御岳山・開田高原（開田村・三岳村・王滝村） 油木美林（三岳村） 赤沢自然休養林（上松町） 寝覚の床（上松町） 阿寺溪谷（大桑村） 田立の滝（南木曽町） 賤母山（南木曽町・山口村） 南木曽岳（南木曽町） 【南 信】 塩嶺御野立公園・出早公園（岡谷市） 霧ヶ峰高原と八島湿原（諏訪市・茅野市・下諏訪町） 諏訪のケヤキ並木（諏訪市） 北横岳と坪庭（茅野市） 縮枯山（茅野市・八千穂村） 南八ヶ岳連峰（茅野市・富士見町・原村・南牧村） 小野の枝垂栗自生地（辰野町） 横川溪谷（辰野町） 萱野高原（箕輪町） 入笠山と釜無溪谷（富士見町・高遠町・長谷村） 高遠城址公園（高遠町） 甲斐駒ヶ岳・鋸山（長谷村） 仙丈ヶ岳と北沢峠原生林（長谷村） 赤石岳・塩見岳・三伏峠（大鹿村・長谷村） 木曽駒ヶ岳・空木岳と千畳敷カール（駒ヶ根市・宮田村・木曽福島町・上松町・大桑村） 光前寺の森（駒ヶ根市） 与田切溪谷とシオジ平（飯島町） 不動滝（高森町） 風越山（飯田市・上郷町） 天竜川・天竜峡（飯田市・阿南町・下条村・天竜村・泰阜村・南信濃村） 飯田のリンゴ並木（飯田市） 元善光寺公園（飯田市） ふるさと村自然園（清内路村） 恵那山と富士見台・園原（阿智村） 治部坂高原（浪合村） 極楽峠（下条村・浪合村） 大山田神社の森（下条村） 万古溪谷（泰阜村・飯田市） 新野高原（阿南町） 茶臼山高原（根羽村・売木村） 記念休養林と丸畑溪谷（売木村） 【景 観 選】 小川村からのアルプス
--	---